

## 第 14 回（2014 年） ざまひまわり写真コンテスト全体講評

### 【全体講評】

「ざまひまわり写真コンテスト」も回を重ね第 14 回を迎えました。今回のコンテストでは、応募点数が 690 点、応募者が 292 人で、前回と比較し減少はしたものの、ほぼ例年通りの安定した状況となっています。このことは、ひまわり写真コンテストが、市内に留まらず近隣の多くの都市のひまわり写真愛好家の皆様に親しまれる事業として定着してきたものと嬉しく感じております。

次に、応募作品の傾向についてご説明いたしますと、ひまわり祭りのにぎやかさを表現したもの、昼間の青空のさわやかさ収めたもの、健康的なひまわりの花の表情を取り上げたもの、きれいな夕焼けを取り込んだもの、家族とひまわりを楽しむひとときを捉えたもの、蝶や蜂をねらったものなど実に幅広い対象を写した作品をご応募いただき、皆様の感性の豊かさに感心をいたしました。主催者であります座間市観光協会及び各賞の提供団体からも、充実したコンテストが開催されたいへん喜ばしいことと伺っております。また、応募された方の年齢も 6 歳から 89 才の方までと大変幅広い年齢層にご指示いただけたものと心強く、ありがたく感じております。

入賞作品につきましては、全応募作品の中から 20 作品を選出し、その中の 10 作品に賞の名称を付し、他の 10 本を入選としました。10 賞を獲得された方の作品にはそれぞれに寸評を記しておきましたのでどうぞご覧ください。惜しくも入賞（全 20 作品）を逃した方の中にも良い作品が多数ありました。特に同質の対象を撮影した作品を複数の方からご応募いただいた場合、また、なにぶんにも入賞数を 20 作品に絞らなければならないという審査基準の中で、残念ながら含めることができなかった作品が多くありました。この点は審査に携わる者として大変心を痛めると同時に皆様には次回のご健闘をご祈念申し上げるところです。

作品は年々レベルアップしており、応募くださる写真愛好家の質の高さを感じておりますが、コンテストも 14 回と数を重ねてまいりますと、これまでにたくさんの作品が応募され、皆様におかれても作品の提出に迷いの生じる時期かと思われまします。しかしながら「いつでも表現のしっかりしたものは良い作品」であることを再認識いただき制作の一助としていただきたいと思います。今回の講評に記載いたしましたので、ご承知くださるようお願いいたします。

また次回も、多くの皆様にご参加いただきますよう心よりお待ち申し上げ、この度の「ざまひまわり写真コンテスト」審査員の全体講評とさせていただきます。皆様とは、またこの会場でお会いできることを期待いたしております。

平成 26 年 10 月 21 日

写真家 高橋ざいち